尻別川流域委員会（第６回）議事要旨（案）

■日時： 令和６年２月１６日（金）１３：００～１４：４０
■開催場所：蘭越町ふれあいプラザ２１ 大ホール（WEB 開催併用）
■出席者： 山田委員長、江頭副委員長、卜部委員（WEB）、小田桐委員、菅井委員（WEB）、谷口委員、（以上６名）［欠席：黒川委員］ ※委員長・副委員長以降の順は五十音順
■議題 １．尻別川水系河川整備計画［変更］（原案）へのご意見とその回答について
２．尻別川直轄河川改修事業の事業評価について

■議事要旨
１．尻別川水系河川整備計画［変更］（原案）へのご意見とその回答について
【委員】
・ 融雪状況の変化（資料-1 P10）は、前回に比べて統計期間も延長し、細かく整理されている。3 月-4 月の 0℃以上の日数が増えると融雪が早まることがよく分かる。今後のモニタリングを行って行く上で、気温は重要な指標である。
・ 降雪量が減少傾向であり最深積雪量が横ばいなのは、降り始めと融雪期の降雪量は減少しているが、厳冬期 1-2 月の降雪量が変わらないことが原因と想定される。年間降水量も合せてみると、降雪量の減少がより明確にわかると思う。
・ 融雪期の最大流量が若干減少傾向なのは、気温が上昇する日数が増えて融雪の頻度が高まり、大きい融雪出水が減少していることが想定される。
・ これまでの融雪量の変化が少なく見えるのは、融雪期の降雨が加味されていることが原因として想定される。

【委員長】
・ 雪質は、この地域では重要なキーワードであるため、今回のような融雪に関して整理した情報は、一般の方々への水資源等への意識付けとして有用な情報ではないかと考える。
・ 今回整理した情報は、今後河川管理者の立場としてどのようなことに配慮しなければならないか。

【事務局】
・ 積雪や結氷により、樋門が閉められない状況で融雪出水が発生すると、樋門から河川の水が逆流し氾濫が発生するなど、河川管理者の立場として懸念される点である。

【委員長】

・　融雪期の最大流量は 50～100m3/s 減少しているように見えるが、この量についてはどのような評価であるか。

【事務局】

・　まだ河川内に雪や氷がある時期の 100m3/s については、尻別川ではかなり影響が大きいと考えられる。

・　3 月まで気温が低くて 4 月以降急に気温上昇した場合など、一気に河川水位が上昇するなど極端化していくことも考えられる。樋門の操作などにも大きく影響を及ぼすため、融雪期の河道内の状況については注視していかなくてはならないと考えている。

【委員長】

・　今後の気候変動の影響による対応策を模索する中で、融雪に関しても重要な検討対象であると考えられる。北海道では、道南や東北北部の状況を注視していくことも必要であると考えられる。

【委員】

・　原案４３ページ、１７行目に、ヨシ原は鳥類の生息環境となっていると記載されているが、ヨシ原は水質浄化作用や、鳥の餌となる昆虫類の生育場の面からも重要度が高く、ヨシ原がオギ、ススキに変化してしまうとそのような環境が失われてしまう。ヨシ原を保全・創出する理由が一般にも理解できるよう、ヨシ原の重要性を整備計画（案）に追記願いたい。

【事務局】

・　ヨシ原の重要性について、整備計画（案）に追記させていただきたい。

【委員】

・　住民からの意見は、地域の環境について興味があり、詳しい方が多いと感じた。また、情報発信に関する要望も多いと感じる。尻別川クリーン作戦のようなイベントについて、住民を巻き込んで企画する機会等あれば、より環境に関する住民意識が向上すると考える。

【委員長】

・　今後、地域や流域全体で治水を考える際に、子供の将来も見据えた幅広い意見をどう引き出せるかについて、関連する取組などはあるか。

【事務局】

・　尻別川かわづくりワークショップの場等あらゆる活動主体とも連携していく中で、子供も巻き込んだ取組がある。

【委員】

・　気候変動の影響による融雪の変化や雪質の変化等に関する情報については、その情報が流域の観光産業にも大きく影響することから、定期的に自治体、観光関連団体等と情報を共有する機会をつくることが必要である。

【事務局】

・　子どもと生物調査、河川清掃などの取り組みは、すでに行われているが、河川整備計画との関連は意識しにくいと考えられるため、意識的に関連付けできる機会を今後検討したい。

・　河川管理者で整理したデータについては、今後さらにオープン化を進めなければならないし、先生方の力を借りて講演の機会など地域へ情報提供していくことを考えていきたい。

【委員】

・　住民意見は環境に関する意識レベルが高く、整備計画変更に前向きな意見であると感じた。

・　これを踏まえ、魚類の生息環境に関する回答（資料-1 P22）として具体に書くのは難しいと思うが、原案５１ページ、１０行目には魚類にとって良好な生息環境の位置付けを記載しているので、「魚種によって異なるため」という表現ではなく、十分に配慮した上で、原案に記載している旨を回答すべきである。

【事務局】

・　いただいた意見を踏まえて、資料-1 の回答を修正する。

２．尻別川直轄河川改修事業の事業評価について

【委員長】

・　（資料-3 P25）直接被害と間接被害の分類の考え方を教えてほしい。

【事務局】

・　直接被害は氾濫流により物理的に直接被害を受けたものに対し、間接被害は清掃や営業停止による損失など直接被害に伴って生じる２次的な被害である。治水経済調査マニュアル（案）に基づき、全国で統一した整理となっている。

【委員長】

・　流域の特徴・特性等世界的なアピールできる項目は評価軸になっていない。全国的な評価軸の中で流域の特性を今後どのように反映していくかが課題であり、反映できる仕組みが必要であると考える。

【委員長】

・　整備計画は長期にわたるので、その整備の進捗は分かりづらい。定量的に進捗度を示すと地域の川に関する関心・意識が向上される。

【委員】

・　河川の安全性や川の環境の良さを分かりやすく住民と共有できる指標があるとよい。琵琶湖では透明度、水のきれいさを指標として住民と共有して、少しでも透明度を上げる取り組みを行った。分かりやすい数字があることで、継続的に意識を保つための重要な要素となる思うので、検討してはどうか。

【委員】

・　環境について指標で表すことは難しいと感じるが、防災面では、氾濫の解消などの情報を整備効果とするなどがわかりやすい。

【委員】

・　地元住民への、河川事業に対する理解や整備の進捗に関する情報発信が重要と感じた。

【事務局】

・　尻別川は、魚類の産卵床をはじめとした河川環境を保全しながら丁寧に河道整備を進めてきた河川である。河川整備にあたっては、尻別川の何を大事にしながら進めている

かをアピールするなど情報発信を検討していきたい。

まとめ

【委員長】

・　以上の審議により、尻別川水系河川整備計画［変更］（案）及び事業評価についてご了承いただけるか。

（異議無し）

＜以　上＞